

よく似た国で、いつものひとつ風呂

葛西 暢人

プロフィール
1969年神奈川県生まれ。高校時代にシルクロードを陸路で旅行して以来、海外旅行に熱中する。早稲田大学大学院修了。早稲田大学助手、日本女子大学非常勤講師を経て、『早稲田学報』担当など出版・編集業に携わる。著書『魅惑の温泉めぐりトルコ』（新樹社）のほか、ウエブなどで国内外を問わず「お出掛け」の楽しさを発信している。

スジャツク・スー・カプルジャに行くといい——
はじめてそう勧められたとき、トルコ語力も不足
していて、意味が分からなかった。スジャツク・スー
は「湯」という意味だ。ではカプルジャって？

トルコ語でカプルジャとは「温泉」なのだ。有
名なトルコ風呂「ハمام」は湯船のない蒸し風呂だ。
温泉があるとは予想していなかったから、ハمامと
は別物の、湯船がある風呂であることを何度も確
認した。

安宿ばかりでバスタブ付きの部屋には泊まっ
ていない。日本でも温泉めぐりは大好きだ。湯につ
かることのできる温泉があると聞きつけたら、も
はや予定などどうでもよい。大急ぎで勧められた
温泉地、ブルサ行きのバスに乗り込んだ。

「カプルジャへの行き方を教えて！」宿に着くな
り部屋の検分もそこそこ、風呂に向かう。

これはすごい！湯の使い方がぜいたくなの
だ。湯船に注がれる湯はもちろん、客が桶ですくつ
てかぶる湯の量も景気がいい。その桶は直径二〇
センチメートルぐらいの金物で、それほど湯が入
らない大きさだから、カランから流れる湯を団扇
であおぐがごとく、ザバリザバリと豪快に浴びる。
そして、深めに張られた湯の中で悠々と過ごす。

浴室への入り方はハمامと一緒だ。男の場合、風
呂で手渡される腰巻きを着用する。ゆつたりした
水着を持参する客も多い。「素っ裸」というわけに
はいかないが、大いに満足である。

トルコにはおよそ五〇〇の温泉がある。山の秘
湯、海辺の湯、湯治場のような温泉地から、近代
的な温泉リゾート施設まで、雰囲気はさまざまだ。
腰巻きや水着を着用したり、建物の設えや風呂
場の桶が変わっているなど道具立てに違いはあれ
ど、入浴文化は日本と大変よく似ている。体を洗
いもせずに湯船に入るような日本で嫌がられるこ
とは、トルコでもたいていマナー違反である。日本
と同じ振る舞いで、おおむね正解となる。だから
海外といえど気楽なのだ。

似ているといえ、温泉ホテルに卓球台が並ん
でいるのを目撃したときには、目まいがするほど
の衝撃を受けた。トルコ人が考えることは日本人
と同じなのであろう。

トルコと日本は離れていても、よく似た文化が
ある。普段とは違うエキゾチックな興奮を味わう
ばかりが海外旅行の魅力ではない。親しみのわか
り習慣がある土地で、ほっとする時間を過ごす海外
旅行もまた楽しい。

1	エッセイ 千字文 よく似た国で、いつものひとつ風呂 葛西 暢人	12	みんなく Information
2	特集 世界温泉めぐり 世界の温泉にわけいる 南 真木人	14	世界のバスケットリー×バスケットリーの世界 森の民の知恵 ——バスケットリーの起源をさぐる 池谷 和信
4	生態資源と観光資源のふたつの顔をもつ温泉 野林 厚志	16	みんなく回遊 牧畜民のテントをめぐる 辛嶋 博善
5	社交と癒やしの場 菅瀬 晶子	18	シネ倶楽部 M 信仰と官能のあいだで ——「バベットの晩餐会」 新免 光比呂
7	メキシコの蒸気風呂、テマスカル 禪野 美帆	20	ことばの迷い道 先生、僕にはアブガイが3人いるんだよ 島村 一平
8	ドイツの温泉事情 ——なぜわたしがバーデン・バーデンに行ったことがないか 山中 由里子	21	次予告・編集後記
10	〇〇してみました世界のフィールド ユートピアの廃墟 王寺 賢太		

月刊
みんなく

11月号日次